

フレンドリー

FRIENDLY



平成29年度を振り返って



小中学生中国・岐阜市派遣



中学生ベルギー・ナミュール市派遣



高校生アメリカ・ビーバートン市、ユージーン市派遣



ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入



子ども国際交流お菓子フェスティバル(パレーの踊り)



十萬石祭り



本場のカレーの作り方



日本文化講座(浴衣)



和服体験



日本語指導ボランティア講座



ポルトガル語基礎会話講座



日本語教室



にほんごおしゃべりルーム



就学前外国人児童日本語等指導事業

No.86
2018
MARCH

第9回大垣市小・中学生中国・邯鄲市研修派遣

(8/17(木)～8/23(水) 小学生9名、引率者3名)

日程表

8/17	中国へ出発北京着、頤和園と動物園見学
8/18	列車にて邯鄲へ、歓迎レセプション
8/19	太極拳体験・広府城見学
8/20	邯鄲市博物館と叢台公園見学、 星源学校訪問
8/21	響堂山石窟見学、磁州窑博物館見学
8/22	列車にて北京へ故宮博物館、天安門城楼
8/23	万里の長城、帰国 家族が待つ大垣へ



▲出発式で研修の目標、決意を述べました。



▲邯鄲駅にて

はん たん

邯鄲市

たい きょく けん

太極拳体験



林 暖乃
(赤坂小学校5年)

太極拳はいろんな動きがあって、ゆっくりで落ち着いている体操みたいなものもあれば、すばやく飛んだりする試合みたいなものもありました。それに剣を使った型もあってとてもかっこよかったです。私が想像していたのは、柔らかい感じの動きでしたが、まったく違う激しい動きもあって驚きました。



約3千年前に作られた橋が、くずれることなくとてもきれいで驚きました。きれいなままでいられるのも、中国の人たちが昔の物を大切にしているからだと思いました。

約3千年前の橋



陶芸体験



てん だん

天壇公園と天安門見学



▲天安門にて



▲天壇公園にて

中国では、赤色を好んで使い、白色は縁起の悪い色となっています。日本では、反対に白色が縁起のいい色で、赤はあまりよい色とされないことがあります。そこは、日本と大きく違うところだと感じました。また、中国の建物を見ていると、色で身分の違いを示しているものもありました。北京の天壇公園では、青い屋根が神様の住むところで、緑の屋根が人間の住むところとなっていて、驚きました。



名和 薫乃
(日新小学校6年)

歓迎レセプション



郡 隆吾
(北小学校5年)

ホテルで邯鄲市担当の方たちと一緒に夕食をとりました。僕たちを歓迎しようと、とても豪華な食事が用意されていて、びっくりしました。鍋料理や野菜の炒め物など、口に合う料理がたくさんありました。

僕が研修を通して学んだことは、3つあります。1つ目は、交通のことです。日本では歩行者が優先ですが、中国では車が止まらず、横断歩道を渡るときはなかなかタイミングがつかめませんでした。2つ目は、建物のことです。観光しに行った所など昔なのに建物の作りが複雑で、今よりもすごかったです。3つ目は、食事のことです。中国では円卓が使われていて、料理が食べきれないほど出てきました。それを全部食べてしまうと、もてなしが足りないことになり、失礼なことになります。なので、料理が次から次へと出てきます。



▲邯鄲市外事弁公室室長から温かい歓迎のお言葉をいただき、熱烈歓迎を受けました。



こう ふ じょう

広府城見学



▲広府城にて

名札を見せながら交流



僕は、広府城の中で、太極拳を学んでいた一人の子に話しかけられました。そこで中国語と日本語の言葉が載っているガイドブックをほしいと言われました。話しかけられたときは、びっくりしました。ガイドブックを渡したときに、写真を一緒に撮り、握手をしました。中国の子と触れ合えて、中国に新しい友達ができ、僕はうれしかったです。



後藤 大輝
(北小学校5年)

星源学校訪問&餃子パーティー交流



中村 心季
(南小学校5年)

まず、現地の子たちのパフォーマンスをみました。中国の有名な詩を読んでもらったり、琴を弾いてもらいました。特に、琴の発表は日本で聞いたことのない音楽を弾いていたのだと思います。次に私達のパフォーマンスを見てもらいました。私達は、大垣紹介と日本の昔話である「浦島太郎」を中国語で披露しました。また、去年流行った恋ダンスも踊りました。終わった後に「じょうずだね」と言ってもらったので、うれしかったです。紙風船や折り紙などの日本の伝統的な遊びをやって、日本のことを知ってもらえたので良かったです。

ビンゴゲーム、紙風船、手玉などで交流したよ。



餃子の作り方を教えてもらったよ。



邯鄲の子どもたちと、餃子パーティーをしました。いっしょに、ニラと肉の餃子を作りました。中国の子供たちは、スマホを使って、「ちょっと大きいよ」とか教えてくれました。とても楽しかったです。

私達の研修の目標に「五感で楽しもう」という部分があります。中国での一週間は、本当にその通りで、毎日新しいものを見たり、言葉を聞いたり、中華料理を食べたり、自然や文化に触れたり、中国のおいさをかいだり…と五感を使って中国を楽しむことができました。本当に疲れたけれど、中国に実際に行かないと味わうことができないことがたくさんありました。



内山 侑
(江東小学校6年)

北京市

頤和園と動物園見学

頤和園とは、かつての中国の皇帝の別荘です。中国の建物は、どこまでも派手でした。玄関のところなどでは、キリンの銅像がありました。そこから見える池の蓮の花が見事でした。そこで休憩した後、電話博物館の中に入りました。皇帝が使った電話がありました。

頤和園の見学が終わったら、バスで移動して、北京動物園に行きました。パンダが二匹いると思って歩いていたら、三匹目もありました。とてもうまく隠れていたの、びっくりしました。そのほかのパンダは寝ていました。パンダを見た後にお土産をたくさん買いました。



家倉 隆慶
(興文小学校5年)



▲北京動物園にて



▲頤和園にて

万里の長城



▲北京では久しぶりの青空だそうです。



万里の長城には、女坂と男坂がありました。女坂は、とても景色がきれいだそうです。私達は、男坂の方を登りました。男坂は、一段、一段が高く、角度がとても急でした。登った先から見た景色は、とてもきれいで、自然がたくさん見えました。また、人や建物がとても小さく見え、それだけ高いところに登ったんだなと思いました。降りるときは、登りよりもとても急で、怖かったです。走り出すと、なかなか止まることができませんでした。とても大きくて偉大な万里の長城に実際に行き、登ることができて、とても貴重な経験をすることができました。



里 夏妃
(北小学校5年)

研修を終えて



増田 虹帆
(赤坂小学校5年)

中国に対しての印象は、行く前はずっと「日本の文化が一番」と思っていたけれど、いざ行ってみると中国の方はとてもやさしく、楽しい方々で中国のことが好きになりました。今の中国の印象は、「明るくて楽しい良い国」になりました。私は、この研修を通して中国の良さに気付くことが出来ました。だから、また中国の方と交流を通して「中日友好」を目指していきたいと思いました。磁州窑博物館では、有名なかまどや「当時の暮らし」を再現したものもありました。どれも今まではよく知らない物ばかりでしたが、見ることで非常に興味を持ち日本に帰ってからじっくりと調べてみたいと思いました。



▲磁州窑



▲磁州窑にある町の町長さん達との食事会にて



団長 比留木 修
(宇留生小学校校長)

中国に初めて訪れた私が一番驚いたことは、何を見てもスケールが大きいことです。頤和園や北京動物園、天壇公園、故宮博物館、そして万里の長城と、見るもの全て、本当にスケールの大きなものでした。子どもたちはもちろん、大人も心から「来ることができてよかった」と思う場所に訪れることができ、感激でした。



総務兼通訳
松原 玉林
(国際交流協会職員)

派遣団員の子どもたちにとって、中国での一週間は間違いなく人生の大きな「糧」になることでしょう。行けば分かる。行ったからこそ分かる。そうした学びを体感したことと思います。この学びが、今後の派遣団員の大きな成長の基盤となる意義深い研修であったことは間違いのないことだと思います。



総務兼通訳
渡邊 電也
(南小学校教諭)

ビンゴゲームは中国にはないと聞き、ビンゴゲームのカードと景品をもっていき、子どもたちから先生まで大変盛り上がりしました。みんな興奮してどんどん声が大きくなり、叫ばないと聞こえない状況でした。最後には声がガラガラになりましたが、言葉の壁を越え、みんなと一緒にビンゴゲームを楽しみました。大成功でした。



第7回大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣

(9/16(土)～9/23(土) 中学生8名、引率者3名)

日程表

9/16	ベルギーへ出発 ホストファミリーと対面
9/17	ホームステイプログラム
9/18	学校訪問(Institut de la Providence)
9/19	専門学校(IATA)、ナミュール市表敬訪問、市内見学
9/20	リエージュ、さよならパーティー
9/21	ホストファミリーとお別れし、 ゼント、ルーヴェンへ
9/22	ブリュッセル訪問、 夜日本へ向けて出発
9/23	帰国 大垣到着



▲小川市長らに出発の挨拶をしました。



▲ホストファミリーと再会を誓ってお別れました。

表敬訪問・市内見学



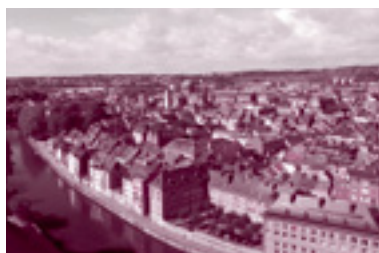
金山 理子
(赤坂中学校3年)

ナミュール市役所はとても綺麗で、お城のようでした。残念ながら市長にお会いすることはできなかったですが、副市長をはじめ市役所の方々に優しく迎えてもらったので嬉しかったです。ナミュール市紹介PR動画はハイクオリティーで、短い時間でナミュール市について詳しく知ることができました。

▼副市長さんから温かい歓迎のお言葉をいただきました。



ナミュール市は大変歴史的な街で、古い建物がたくさん残っています。新しい建物と古い建物を見分けるコツは、窓の大きさです。昔は大きな窓を作る技術がなかったため、小さな窓しか作れなかったからだそうです。ナミュール城砦は、シタデルというつくりで、シンデレラ城などの縦に長いお城と違い、地下に部屋を作り敵からの攻撃に備えていたそうです。ナミュール市の良さをたくさん見つけると共に大垣市についても見つけ直す事ができました。



▲ナミュールの街並みをバックに記念撮影

中高一貫校 (Institut de la Providence) 訪問



福田 遥
(滝中学校3年)



▲休み時間に生徒が集まる中庭

学校に入ってます、日本と全く違う西洋の建物の雰囲気圧倒されました。高い天井やオシャレな床、そして中心にある大きな中庭が、「日本とは違う」ということを深く感じさせました。私と同じ中3の生徒と英語の授業をしました。グループになって質問をし合ったりするうちに、2人の子と仲良くなれました。私があまり英語を理解できなくても、相手の子の英語の能力がとても高いおかげで会話が成立しました。言語が違う人と話せて仲良くなれたことに感動し、もっと勉強して英語で会話できるようにしたいと強く思いました。廊下ですれちがうとたくさんの人が「ボンジュール!」と挨拶してくれました。それに比べて日本人はあまりフレンドリーではないです。自分から話そうとする意欲があるから、この学校の人達は英語のレベルが高いのではないかと思います。積極性がいかに大事かを、周りの人にも伝えていきたいです。



▲ベルギーの中学生と英語で授業



▲ひらがな、漢字に興味津々の小学生と交流

学校での1日:
授業参加の交流(中学校、小学校)、日本文化発表、チョコレート作り



スイーツがたくさんのカフェテリアにワクワク!!



▲iPadを使って授業をしていました。



▲チョコレート作り



▲合唱、リコーダー、茶道、書道を披露

日本と比べ規定が少なく自由に見えますが、自己責任ある行動を取れるからこそ「信頼の自由」であると感じました。服装や持ち物の規定はなくても、服装や文具類はシンプルで実用的なもの。学習面や授業姿勢からは日本より遥かに厳しく、学習能力も優れており授業態度も真面目で積極性を感じました。幼少期から異なる言語に慣れているせいか新しい言語の吸収力も優れていました。日本も英語以外の言語学習に早期に取り組む必要があると思いました。



岩下 菜々香
(南中学校1年)

芸術系専門学校IATA訪問



▲宝石学科の生徒さんと



▲とても繊細な時計の組み立て



川添 有希
(星和中学校2年)

20以上の学科があって、そのうちの時計、宝石、写真の3つの学科を見学させていただきました。写真学科では、生徒のみなさんが1人ずつの写真を撮ってくれました。プロカメラマンを目指している人たちで、明るさや角度、顔の向きまでの確かな指示をして、光や角度をうまく利用してすごいと思いました。生徒の中には高校生もいて、あんなにも専門的で難しいことを勉強しているすごいと思いました。

私のホストファミリーは4人家族ですが、主にマザーのローレンスとシスターのマノンと5日間を過ごしました。ホストファミリーとたくさん話した中で、一番印象に残っているのが、ヨーロッパの言語教育についてです。マノンの宿題を見せてもらうと、見慣れない言語がありました。その言語はラテン語で、ヨーロッパの言語の語源になっていると教えてくれました。

私は生まれて初めてのホームステイと海外滞中で楽しみな反面、もちろん不安でした。そんな私を温かく迎えてくださったファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。ファミリーが来日する際には、温かい歓迎をして恩返しをしたいと思っています。



▲住宅地はとても広々としていました。



矢橋 舞美
(赤坂中学校2年)



▲朝ごはん

私のホストファミリーはお母さん、お姉ちゃん、妹の3人家族で日本が大好きな家庭でした。私の緊張をほぐすために笑顔でいろんな話題をふってくれ「どのくらい飛行機に乗ったの?」とか、簡単な英語で話してくれ、優しさを感じました。私もそれに応えようと、慣れない英語とジェスチャーで必死に伝えました。私の合っているのか分からない英語を最後まで聞いてくれて、どうしても聞き取れなかった言葉はスマホを使って一生懸命理解しようとしてくれました。申し訳なくなって「Sorry.」と言うと「No problem!」と笑い飛ばしてくれ、心が軽くなったように感じました。失敗を恐れずに伝えようとする気持ちが大切だなあと感じた1日でした。



▲世界遺産グラン・プラス

ワテルローとブリュッセル



国枝 里佳
(北中学校2年)

ワテルローの戦いの跡地に着くと、腕組みをしたナポレオンの像が立っていました。隣には体験型の博物館があり、目で見え、手で触れて、耳で聞いて様々なことを学ぶことができました。



次にブリュッセルのグラン・プラスに行きました。世界遺産に登録されているだけあって、周りを取り囲んでいる建物全てがとても美しかったです。建物の壁の彫刻は細かいところまで彫られていて、本当にすごいと思いました。



▲世界遺産グラン・プラス

ホストファミリーとの思い出

さよならパーティー



古田 奈央
(西中学校3年)

夕方学校に戻り、さよならパーティーの準備をしました。5日間のホームステイは本当に充実していて、もうお別れなんだなあ...と思いながら準備をしました。最初は不安だった私たちを温かく、本当の家族のように迎えてくれたホストファミリーに感謝の思いを伝えようと発表しました。ホストファミリーは私たちの合唱を聴いて、感動して鳥肌がたつたと言っていました。発表の後、ホストファミリーとの最後の夕食でした。他のメンバーのホストシスターとも会話ができたし紙風船でも遊べて、終始笑いが絶えませんでした。ホストファミリーとの絆がさらに深まった忘れられないパーティーになりました。



ベルギー
▲書道で「自耳義」「愛」「日本」。
友好の証です。



団長 伊藤 敦
(西中学校校長)

日本の生徒とベルギーの生徒との間には英語に対する意識が大きく違うことを強く感じました。それは、英語を学ぶ目的です。ベルギーの生徒は相手とコミュニケーションをとるために英語を学び、日常の中で英語を使う機会が非常に多いです。目的や環境の違いが、英語を習得する上での大きな差となっているのではないかと考えさせられました。



総務 吉安 三恵
(国際交流協会職員)

チーム名を「なでしこ大垣」と命名し、事前研修をスタートしました。フランス語の学習とベルギーで披露する出し物の練習をしました。日本文化である「書道」と「茶道」、合唱とリコーダーを披露しました。美しい歌声は会場にいる全員の心に響き渡り、大きな賞賛を浴びました。事前研修の充実した取り組みが、素晴らしい発表やベルギーでの生活につながりました。



総務兼通訳
野村 真也
(東中学校教諭)

ナミュール市を出発する時には、涙のお別れでしたが、それはホストファミリーと充実した日々を過ごし、第2の家族になった証だと思いました。言葉でのコミュニケーションは十分でなくても、相手に向き合い、相手を理解しようとするのが大切だということ、生徒の姿を見て再認識しました。

第2回大垣市高校生アメリカ合衆国 オレゴン州 ビーバートン市、ユージーン市研修派遣

(10/13(金)~10/21(土) 高校生10名、引率者3名)

日程表

10/13	出発 ----- 日付変更線 ----- 到着後、ビーバートン市(市役所、警察署) その後ユージーン市へ移動
10/14、10/15	ホームステイプログラム
10/16、10/17	高校訪問
10/18	ジョージフォックス大学、ポートランド
10/19	オレゴンコースト、ホームパーティー
10/20	オレゴン出発し、日本へ帰国
10/21	到着



▲再会を誓ったホストファミリーと

Beaverton

ビーバートン市



山内 優佳
(大垣南高校2年)

アメリカで最初に訪問したのが、ビーバートン市役所でした。市役所は開放的で広くて、天井が高くって驚きました。最初に市長室に案内してもらいました。副市長が温かく迎えてくれ、ビーバートン市のことを詳しく教えて下さり、ビーバートン市の帽子やサングラスなどお土産をいただきました。市議会場へも連れていってくださり、席に座らせてもらい、会議の疑似体験をさせてもらいました。

次に警察署を訪問しました。日本でも経験のなかったことを3つ体験することができました。

1.牢屋に入れてもらったこと、2.パトカーについて詳しい説明を聞いたこと、3.手錠に触れたこと。市役所や警察署で働く方など、様々な仕事に触れ、素晴らしい経験になりました。



▲お土産のサングラスをかけて記念撮影



▲警察署で手錠をかけられた若原さん



ユージーン市

大垣のように水がきれいな治安もいい街でした。そんな中、大垣との大きな違いを発見しました。気温と天候です。大垣の10月の気温は低くても10度前後。しかし、ユージーン市の気温は最低で2度でした。ホストファミリーの家の近くでは既に雪が少し積もるほど非常に寒く、特に早朝は冷凍庫にいるような感じでした。

ユージーン市はオレゴン大学の学生の街と言っても過言で無いほど学生が多く住んでいます。キャンパスには60年以上前からある建物から、最近建てられたものまであり、自然にも囲まれていて、大変落ち着いた過ごしやすいキャンパスという印象を持ちました。アメフトや陸上などのスポーツにも力を入れており、活力にあふれた大学でした。



高橋 大地
(大垣北高校2年)



▲自然に囲まれたユージーン市



▲オレゴン大学

ジョージフォックス大学



若原 尚真
(大垣北高校2年)

大学は広々としており公園のようになっています。芝生が敷き詰められた構内には20メートルほどもある大樹もありました。茶系の色を基調とした建物はレトロでお洒落な印象を与えます。この大学のシンボルともいえる時計台は自然に囲まれた絶好の撮影スポットです。この環境の中ならのびのびと学習や研究ができそうだと思います。また、学生と教員の割合が14:1と教員との距離を近く感じられることも特長の一つです。派遣団員の中には、自分も含めて、海外留学に興味がある人が多いと思います。海外の大学の雰囲気に触れてよかったです。



▲大学のシンボル時計台

ポートランド



ポートランドは、オレゴン州最大の都市であり、環境にやさしい都市であるとされ、全米住みたい町ランキング1位に選ばれたことがあるほど人気の都市です。ダウンタウンは、高い建物ばかりで、まるで映画の世界にいるような素晴らしい町でした。ここでは2時間ほど自由時間があつたので、3つのグループに分かれて買い物や観光をしました。しかし、町が大きすぎてどこにいるのか分からなくなることが何度かありましたが、地元の人に聞いたりして何とか行きたい店にたどり着けるよう頑張りました。英語で道を尋ねるなど、日本ではなかなかできない経験ができ、少し成長できたと思います。



鈴木 結理
(大垣東高校2年)

高校訪問



高橋 佑衣
(大垣北高校1年)

【ノースユージーン高校】

ホストシスターが通うこの高校で3時間の授業を受けました。3時間目は、シニアプロジェクトの授業でした。「功利主義」と言う考え方をういて、どうすればより幸せに生きることが出来るのかをグループで討論し合いました。とても積極的に意見を言い合っていました。私たちのグループでは意見が2つに分かれていました。普段の私なら折衷案を考えますが、アメリカの高校生は違って、自分の意見にグループのみんなを納得させようと主張し合っていました。自分の意見にきちんとした根拠を持っていて、周りに流されることのない芯のある心を持つ人が多いからだと思います。大変興味深かったです。



▲日本語クラスの教室でのグループ討論



▲学校生活の違いが興味深かったよ。



▲学校生活についてのプレゼンをしました。



▲温かく迎えてくれた歓迎ボード



奥村 芽里依
(大垣北高校1年)

【マリスタ高校】

マリスタ高校は私立のカトリック教の学校です。公立高校との大きな違いは、学校の規模が小さく生徒の人数が少ないです。多くの生徒が自身の車で登校。始業は8時で、50分授業を7限受け、授業間に5分の休憩、3時には下校することができました。どの授業も挙手による発言や質問、ディスカッションの時間が多かったことに驚きました。生徒が主体的に行う授業の中で、どの生徒も発言をすることへの抵抗がそれほどないように感じられました。ホストシスターによると挙手による発言や質問をたくさんしないと、よい成績がもらえないそうです。自動車での通学や自分で選び合わせて受ける授業、さらに生徒主体の従来の考えにとられない授業形態などから、自由な風潮の中に、個々の生徒の自立が感じられました。

【シェルダン高校】

日本語のクラスでは、日本の文化、自分達が通う学校の特徴についてのプレゼンテーションをしました。特に体育祭という行事はアメリカにはないので、応援団の動画を見せた時、身を乗り出して見ている子もいて、同じ高校生でも全く違う生活を送っているということを知ってもらえてよかったです。プレゼン後の質問タイムでも、どんどん聞いてくれて、アメリカの学校生活、オレゴンのおすすめスポットなどを教えてくれ、自分達もオレゴンについてよく知れて、すごく良い機会でした。特にシェルダン高校には制服がないので私たちが毎日制服を着て学校に行くことにびっくりしていました。



茂木 智早
(大垣東高校2年)

ホームステイの思い出



日比 萌咲
(大垣北高校2年)

週末は所有しているログハウスを訪れました。暖炉がありました。中に木を入れたり、火をつけたり。手間はかかるけれども、全部みんなできります。そのゆったりとした時間の流れは、家族の温かさに触れることができる貴重な時間でした。マディーのお家はベジタリアンだということもあり、何を食べているのだろうか?と疑問を感じていましたが、ホストマザーのレシピはバリエーション豊かでした。なんとメキシコ料理まで頂きました。多種多様な生き方を尊重する。まさに「自由の国、アメリカ」でした。この経験は私に「信念をもって生きることの大切さ」を教えてくださいました。グローバルに生きるとは、個性をもちつつ、相手を受け入れることなのだと思います。



▲新鮮な野菜や工芸品が売られていたサタデーマーケット



福岡 真生
(大垣北高校2年)

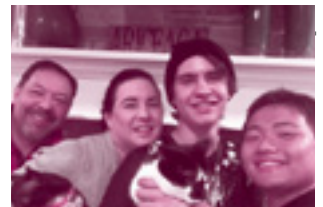
今年の6月に、私の家でホームステイの受入をした子の家族がホストをしてくれるということでずっと心待ちにしていました。私を最初に迎えてくれたのは、ホストシスターのAleaでした。久しぶりに会うことができて、とても嬉しかったです。私の不安が一気に消えていったような気がしました。

4日目はオレゴン大学の見学に行きました。ホストファーザー、マザーがオレゴン大学で働いているということで案内してもらいました。そこで、ホストシスターが慣れた手つきで学校の論文を印刷していたのを見て、日本では考えられない光景に唖然としました。日本とアメリカの文化の違いなのだと思います。別れの時、ホストシスターと私は絶対また会おうねと約束をしました。



水谷 優太
(大垣東高校1年)

ホームステイでの5日間はあっという間でした。一人っ子の僕にとっては兄弟ができたようで楽しかったです。本当の家族のように扱ってくれて嬉しかったです。英語に関しては大事なのは「技術」ではなく「思い」だと学びました。自分が思っていることを相手に伝えようとする心がけが大切でした。アメリカの文化に触れ、人々の考え方にも触れることができました。またホストファミリーに会いたいです。今回の経験をこれからの人生に、世界で活躍するため活かせるよう頑張ります。



団長 安藤 光男
(国際交流協会 常務理事)

私は、国際交流に携わって多くの人たちとの出会いがあり、また異文化を通して素晴らしい交流が続いています。人の価値観、人生観が変わる出会いには、些細なことをきっかけに突然訪れると思います。「出会いは人生の宝物」です。出会った人たちを大事に、そして人と人とのつながりを大切にしていって欲しいと思います。



総務 吉安 三恵
(国際交流協会職員)

私たち引率の3人も改めて日本とアメリカの文化の違いや、習慣の違いなど肌で感じることができましたので、多感な高校生たちはもっと多くのことを感じ、学んでくれたと思います。今後も高校生による研修派遣が長く続き両市の交流がさらに深まることによって、未来の若者がいろんな場で活躍するきっかけとなるような事業となることを期待します。



総務 加藤 咲子
(国際交流協会 部会員)

最終日に「この1週間どうだった?」と聞くと、「日本に帰りたくない」「満喫したから日本の生活に戻りたい」「またアメリカに戻ってきたい」など。将来の進む道を考える岐路に立っている高校生にとって、この研修で経験したこと、素直な心で感じたことは必ず将来の糧になると確信しています。

第12回ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入

(9/27(水)～10/4(水) 高校生13名、引率者2名)

日程表

9/27	京都、奈良見学、夕方大垣到着後ホストファミリーと対面
9/28	大垣城、郷土館、そばうち体験、温泉体験、歓迎会
9/29	表敬訪問、和菓子作り体験、日本文化体験(浴衣、茶道)
9/30、10/1	ホームステイプログラム
10/2	安井小学校、大垣東高等学校訪問
10/3	むすびの地記念館、上石津中学校訪問
10/4	ホストファミリーとお別れし、名古屋城、トヨタ博物館見学
10/5	帰国



大垣市表敬訪問(大垣市役所にて市長、議長と一緒に)

大垣城



歓迎会



和菓子作り体験



学校訪問(安井小)



学校訪問(上石津中)



学校訪問(大垣東高等学校)



日本文化体験(浴衣)



はじめての浴衣!!
とても
うれしかったよ

日本文化体験(茶道)



お世話になった日本文化紹介ボランティアの皆様 (五十音順)

- ・井上美千代さん
- ・柏 多映子さん
- ・梶岡 久子さん
- ・説田好亜機さん
- ・村田千恵子さん
- ・山田 文子さん
- ・臼井 芳子さん
- ・河合 雪子さん
- ・説田 啓子さん
- ・平井 美雪さん
- ・矢野 早織さん

ホームステイボランティアの皆様

プリーニガー団長と内田家



ベック・ダイム副団長と中村家



アリナさんと永井家



アメリーさんと棚橋家



クリストファーさんと平井家



ヘレンさんと安部家



ホアさんと坪井家



クリスティーナさんと河原家



レオナルドさんと岡田家



マーヤさんと高木家



マルセルさんと岩津家



マリオスさんと中島家



マティスさんと伊藤家



マイケさんと篠崎家



ティムさんと中村家



お世話になった皆様、ありがとうございました!

ボランティアの集いと緊急時に役立つ『やさしい日本語』講演会

3/3(土) スイトピアセンターにて

39名のボランティアのみなさんにご出席いただき、平成29年度ボランティアの集いを開催しました。今年度は、「やさしい日本語」をテーマにした講演会とボランティアグループの垣根を越えた交流会を開催しました。

大垣に暮らす外国人は約4,700人。国籍にすると約50か国。多国籍化している中で、全ての国の言語に翻訳をすることは難しく、災害時など緊急な時には、いち早く伝えるために「やさしい日本語」にして伝えることがとても大切だといわれています。講師には、京都で活動されている「『やさしい日本語』有志の会」から杉本 篤子先生にお越しいただきました。講演会のお話を中心に、「やさしい日本語」について紹介します。



杉本 篤子先生

講師のメッセージ

災害時には5つの壁(言葉の壁、制度の壁、心の壁、文化の壁、経験の壁)が高くなると言われています(長岡市国際交流センター 羽賀友信センター長より)。外国人が日本人と同じ支援が受けられるか不安、日本人と同じ場所に避難することへのためらい、生活習慣や文化が違ふことによるトラブルは必ずあります。しかし、日常からコミュニケーションがよく取れている自治体や地域では災害時もトラブルは少ないと言われています。地域、外国人、行政と一緒にあって、「やさしい日本語」を通じてコミュニケーションを取ってみてください。

緊急時に役に立つ「やさしい日本語」って、何？

「やさしい日本語」とは、災害時に、外国人被災者へ正確な情報を伝える一つの方法で、普通の日本語よりも簡単で、外国人もわかりやすい日本語のことです。

1995年1月の阪神・淡路大震災では、日本人だけでなく日本にいた多くの外国人も被害を受けました。日本語が理解できないため、必要な情報を受け取ることができなかった外国人も多くいました。そこで、災害情報を「迅速に」「正確に」そして「簡潔に」伝え、適切な行動をとれるように考え出されたのが「やさしい日本語」です。

やさしい日本語は、最初は災害の発生直後、避難所に誘導し、避難所での情報を掲示する際、地震などの災害が起こったときに使われ始めたことばですが、今では日常生活を伝えるためにも使われ始めています。

やさしい日本語は、ただ言葉をやさしくすることではなく、まず一番知りたいこと、重要なこと、緊急なことから翻訳していくというルールがあります。「何が起きたか」「どうなっているのか」「これから注意することは何か」を伝えることで、外国人が「自ら判断して、行動」ができ、「心の負担が軽減」できます。

どうして「やさしい日本語」が必要なの？

外国人は、災害時に、必要な情報が得られない災害弱者になりがちです。刻々と変わる災害情報をすべての外国語で提供することはとても難しいです。また、英語、中国語だけの情報では、一部の外国人しか理解できません。外国人も身の安全を確保できるように、どの国の人も理解できるような「やさしい日本語」で伝えることが必要です。



基本ルール

災害時によく使われることばを見てみましょう！

①簡単なことばにする(小学3年生の国語の教科書レベルの言葉)、具体的なものや行動を示す

避難する → 逃げる
安否を確認する → 大丈夫かどうかを聞く
危険 → 危ない

②1文を短く、分かち書き、文の構造は簡単にする(1つの文章に主語と述語は一組)

地震の揺れで壁に亀裂が入ったりしている建物に近づかないでください。
→ 建物が 壊れています。気をつけて ください。

③災害時に知っていると役に立つことばはそのまま使い、そのことばの後に〈 〉で言いかえを表記

「余震」 → 余震〈後から 来る 地震〉

④漢字やカタカナにルビをふる

「水^{みず}を 無料^{むりよう}で もらうことが できます。」 「このトイレ^{とイレ}は 使^{つか}うことが できません。」

⑤あいまいな表現は使わない

余震が続く恐れもあります → 余震が続くかもしれません



ボランティアの集い

「やさしい日本語」講演会のあとは、今年度の振り返りとボランティア同士の交流会を実施しました。今年度も多くのボランティアさんのご協力により、事業を実施することができました。ありがとうございました。
平成30年度もよろしくお願いいたします。



「やさしい日本語」講演会



交流会では日頃の活動について情報交換

平成29年度を振り返って

【国際交流・国際理解事業】

《フレンドリーシティ派遣・受入事業》

- ✳ 中国・邯鄲市小・中学生研修派遣
- ✳ ベルギー・ナミュール市中学生研修派遣
- ✳ アメリカ・ビーバートン市、ユージーン市高校生研修派遣
- ✳ ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入

《地域国際交流事業》

- ✳ 子ども食文化体験教室【全3回】
 - ・ブラジル文化を知ろう(6/17) 28名参加
 - ・えいごでクッキング (9/18) 13名参加
 - ・本場のカレーの作り方(1/5) 30名参加
- ✳ 子ども国際交流お菓子フェスティバル (11/5)

《国際交流ボランティア活動推進事業》

- ✳ 日本語指導ボランティア講座(計3期実施) 38名受講
- ✳ ボランティアの集い(3/3) 39名参加

《民間国際交流助成事業》

- ✳ 助成事業：7団体7事業

《外国語基礎会話講座》

- ✳ 英語基礎会話講座(10/7～12/2【全8回】) 14名受講
- ✳ ポルトガル語基礎会話講座(10/7～12/9【全8回】) 5名受講
- ✳ 韓国語基礎会話講座(1/11～3/1【全8回】) 12名受講
- ✳ 中国語基礎会話講座(1/13～3/3【全8回】) 8名受講

《海外事情紹介事業》

- ✳ 多文化紹介講座
 - ・イギリス、オーストラリアの紹介(8/26) 19名参加
 - ・中国、ロシア、アンドラの紹介(1/20) 21名参加



▶ 中国の紹介

✳ 海外研修派遣事業報告会

- ・小中学生派遣[中国、ベルギー](11/12) 52名参加
- ・高校生派遣[アメリカ](12/16) 34名参加

《国際相互理解事業》

- ✳ 事業記録写真等の展示
(スイトピアセンターフレンドリーフロアにて)
- ✳ 広報事業
 - ・機関誌「フレンドリー」発行(9月、3月)
 - ・ホームページによる広報：随時更新中

【多文化共生事業】

《外国人市民支援事業》

- ✳ 外国人市民の日本語学習支援
 - ・ボランティアによるマンツーマン方式の日本語学習支援(毎日(休館日を除く))
学習者数:150名、ボランティア数:101名(2月末現在)
 - ・日本語教室
基礎コース、会話コース、生活情報習得クラス
計87名受講
 - ・にほんごおしゃべりルーム(毎週日曜日)
 - ・就学前外国人児童日本語等指導事業
＜大垣市受託事業＞(11～3月) 39名参加
- ✳ ブラジル人等子弟日本語学習支援事業
 - ・日本語指導者講師派遣(学校法人H I R O学園への派遣)
(毎週火・金曜日)

- ✳ 外国人市民のための相談窓口の設置
 - ・相談窓口(ポルトガル語、中国語、英語)
 - ・行政書士による手続き相談会(毎月第1日曜日)
 - ・ポルトガル語によるこころの相談(毎月第2日曜日)
- ✳ 外国人市民のための行事・講座
 - ・外国人市民のための日本文化講座
和服体験(年14回実施) 40名参加
浴衣体験(7/16) 14名参加(ブラジル、ベトナム)
華道体験(3/11) 16名参加
 - ・外国人市民のための浴衣着付け体験(8/24、8/25)
参加者：計55名(ブラジル)
 - ・神輿体験 in 十万石ふる里まつり(10/9) 21名参加

平成30年度 事業計画

【フレンドリーシティ派遣・受入事業】

- ＊大垣市中中学生研修派遣(ドイツ・シュツットガルト市)(7月)
- ＊大垣市小中学生研修派遣(オーストラリア・グレンアイラ市)(8月)
- ＊大垣市高校生研修派遣(アメリカ・バーバトン、ユージーン市)(10月)
- ＊中国・邯鄲市学生訪問団受入(8月)
- ＊ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入(10月)

【地域国際交流事業】

- ＊フレンドリーシティ交流と多文化共生の集い(2月)
【30周年記念事業】

【国際交流ボランティア活動推進事業】

- ＊日本語指導ボランティア講座(7月、10月、1月)

【外国語基礎会話講座事業】

- ＊英語基礎会話講座(10月)
- ＊フランス語基礎会話講座(10月)
- ＊韓国語基礎会話講座(1月)
- ＊ドイツ語基礎会話講座(1月)

【海外事情紹介事業】

- ＊多文化紹介講座(7月、9月)
- ＊海外研修派遣団員報告会(小中学生:11月、高校生:12月)

【民間国際交流助成事業】

- ＊民間国際交流団体助成(随時)

【国際相互理解事業】

- ＊事業記録写真等展示(海外紹介、事業紹介)(随時)
- ＊機関誌「フレンドリー」発行(3月)
- ＊30周年記念誌発行(3月)
- ＊ホームページによる広報(<http://www.i-oiea.jp>)

【多文化共生事業】

- ＊外国人市民の日本語学習支援
 - ・ボランティアによるマンツーマン方式日本語学習支援(通年)
 - ・にほんごおしゃべりルーム(通年)
 - ・外国人市民のための日本語教室
 - ・就学前外国人児童の日本語学習指導教室(大垣市受託事業)(12～3月)
- ＊相談窓口開設
 - ・相談窓口開設(ポルトガル語、中国語、英語)(通年)
 - ・行政書士による行政手続き相談会(毎月第1日曜日)
 - ・ポルトガル語によるこころの相談(毎月第2日曜日)
- ＊外国人市民のための和服体験(通年)
- ＊外国人市民のための浴衣体験(8月)
- ＊外国人市民のためのお神輿体験(10月)
- ＊ブラジル人子弟日本語学習支援事業
 - ・日本語指導者派遣(通年)

インフオメーシヨ

<ボランティア募集>

公益財団法人大垣国際交流協会(OIEA)では、ホームステイ、日本文化紹介、通訳・翻訳、日本語指導、企画・運営などの各ボランティアを随時募集しております。

<賛助会員募集>

OIEAでは国際交流に関心のある方、又OIEAの設立趣旨や活動をご理解のうえ、支援していただける賛助会員制度を設けています。個人会員と団体(法人)会員があり、ご賛同いただける方を広く募集しています。

年会費(1口)は、個人会員:3,000円、団体会員:10,000円です。詳しくは、下記までお問い合わせください。

大垣市内在住外国人の国籍別人数表

総数:4,713人(9月号との比較 119人増)

※平成30年2月末現在

人数	9月号との比較	人数	9月号との比較	人数	9月号との比較
ブラジル	2,010	21	台湾	8	-1
中国	1,202	20	マレーシア	6	-3
フィリピン	404	25	カナダ	6	-1
韓国又は朝鮮	299	-10	モンゴル	6	2
ベトナム	251	56	ルーマニア	6	2
ペルー	140	-7	エジプト	5	-1
ネパール	79	9	ドミニカ共和国	4	0
インドネシア	41	14	トルコ	4	1
カンボジア	39	-10	ボリビア	3	-3
アメリカ合衆国	32	-7	コロンビア	3	0
タイ	25	1	ラオス	3	0
スリランカ	22	3	シンガポール	3	0
パキスタン	21	7	オーストラリア	3	1
ミャンマー	17	-8	フランス	3	2
バングラデシュ	12	4	モルドバ	2	0
インド	12	5	アルゼンチン	2	0
イギリス	9	0	イタリア	2	0
ポルトガル	9	0	ウクライナ	2	0
オランダ	2	1	パラグアイ	2	0
ドイツ	1	-1	イラン	1	0
アイルランド	1	0	メキシコ	1	0
ニュージーランド	1	0	スウェーデン	1	0
コートジボワール	1	1	ロシア	1	0
スイス	1	1	グアテマラ	1	0
オーストリア	1	1	無国籍	3	-4
南アフリカ共和国	0	-1	フィンランド	0	-1
総人口に占める割合					2.9%

編集後記

平昌冬季オリンピックが開催されている今、86号の最終校正をしています。

「平成29年度を振り返って」。86号表紙には、OIEA設立以来、継続されてきたフレンドリーシティとの派遣・受入、ボランティア活動等の歴史と成果が見られます。

毎号、コミュニケーションの大切さと、フレンドリーな喜びの笑顔を掲載することが出来ました。これらの事業に参加された人々から、多くの人が大切なものを感じられたことを、「フレンドリー」からお伝えしました。

平成30年度、OIEAは30周年を迎えます。皆様の応援をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【みなさまからの情報をお待ちしております】

個人や団体などの国際交流活動、海外での異文化体験などの情報等ありましたら、事務局までお知らせください。また、ご意見、ご感想などありましたら、併せてお寄せください。

フレンドリー No.86

編集／公益財団法人大垣国際交流協会 広報委員会

〒503-0911 大垣市室本町5丁目51番地 スイピアセンター学習館2階

TEL(0584)82-2311 FAX(0584)82-2314

<http://www.i-oiea.jp/> [E-mail] oiea@mb.ginet.or.jp

発行／2018年3月

印刷／サンメッセ株式会社

